



リレートーク #176



即戦力はいら ない (人間力採用)

日比谷 武

富士ゼロックス
常務執行役員

一昨年の入会から、「教育問題委員会」「新卒採用問題PT」「経済懇談会」「グローバル時代の人材育成・活用部会」などの活動を通して多くの魅力的な方々と出会い、たくさんの気づきや学びがあった。経済同友会に心より感謝している。

具体的実践では、大学での授業や企業事例発表、弊社へのインターンシップ受け入れなど、この間いくつかの大学の皆さまとの交流があり、異分野との対話がいかに難しく、かつ大切かを実感した。変化の激しい時代、今のままでは、企業も大学も国際社会から取り残され、日本の明日は無いとあらためて危機感を持った。日本が将来にわたり、“尊敬され、内外の人々から魅力的な国であり続ける”その持続的成長の鍵は何といても「人材立国」であり、次世代や将来世代の育成にある。

グローバル社会に通用する人材の育成には社会の協力が必要だが、その前提として、日本の企業や大学が、国際社会から見て魅力ある組織にどう変革できるかが課題である。長期的視点での指導者層の強力なリーダーシップとともに、現場力、すなわち組織構成メンバーの健全な危機意識の共有と具体的行動力が問われている。

特に企業社会がグローバル化、フラット化する時代に通用する人材には、二つの側面があると思う。まず、企業人・経営者の側面から求められるのは、①変化を読み対応。②多様性の受容と活用。③自分の夢、あこがれ(価値理念)を所属企業で実現。④限りある経営資源を重点投入する戦略的発想。そして、基本的には自由であるべき企業経営では、倫理面でのしびりが唯一の制約ということで⑤倫理意識である。

もう一つは、人間としての側面から望まれる人間力。この構成要素は①人間的魅力。②人間性。③感動する素直な心。④文化的アイデンティティーを持った上で、異文化への理解と好奇心。⑤向学心である。

とかく即戦力を求めがちな世の中だが、人間力を付けるためにもリベラルアーツ(教養)教育を徹底し、歴史や先人の知恵(日本の伝統精神、文化)に学び、個性ある人材を産学連携で多面的、長期的に育てていくことが、今、最も重要な本質的テーマではないだろうか。

次回リレートーク: 深澤 祐二(東日本旅客鉄道 常務取締役)